



Vol. 7 刈取り・搬入編

【2018.9.28】

稲穂の色も黄金色に色づき、待ちに待った収穫の時期となりました。今年には猛暑で暑い日が続き、また収穫時期は台風や雨の日が続いたり、大変な年になりましたが順調に収穫されています。刈り取られた日本晴は、次々とカントリーに運ばれています。

今年も酷暑で夏場の生育期に暑い日が続きました。生育に影響が出るかと思われましたが、例年並みに収穫時期を迎えることが出来ました。蒲生の田園の稲穂が黄金色に色づき、コンバインで刈取り作業をする生産者さんが忙しそうに作業する姿が見られました。また、刈り取り時期を迎え頃から雨の日が多く、台風の上陸などもあり倒伏の被害や刈取りが遅れるなどの影響がありましたが、ほぼ刈り取りは終わりを迎えています。

刈り取り後、収穫された籾は、900kg入のフレシキブル・コンテナに詰められ、集荷施設のカントリーエレベーターへと搬入されます。搬入された籾は、カントリー内に流し込まれ乾燥機へと送れます。乾燥作業は、職員が24時間体制で交代し、均一に乾燥がされるように調整しながら乾燥作業を行います。乾燥後は、貯蔵され出荷前に籾すりして出荷されます。

また、蒲生地区にある各小学校では、春に食農教育の一環として田植えを行った稲が成長し、稲刈り体験が行われました。各地域の生産者の方やJA職員が教育開催に協力し、小学生に稲刈りの仕方を教え、実際に鎌で1株ずつ刈り取っていきます。皆さん手際よく刈り取りを楽しんでいる様子でした。終了後、感想を聞いてみると「たのしかった!」や「早く新米食べた!」などの声を聞くことが出来ました。普段なかなか農業に接する機会が少ない子供たちも多い中、春の田植え体験や秋の稲刈り体験を通じて食や農業の大切さや楽しさを知ってもらえたと思います。

今後も「食」を支える根本である農業の大切さを地域の方々に伝えていきたいと思っています。



↑コンバインで刈取り作業の様子



↑小学校稲刈り体験の様子



←フレコン搬入の様子→